

感動の場 一点

『無題』

1980 年 小川原 脩 画



桃色の濃淡で表現されたしなやかな肢体と、ふっくらと太く、特徴的な白い先端のしっぽ。ここには1匹のキツネが描かれています。右から左へと、目の前を駆けてゆくさなか、こちらの視線に気が付き、ふっと立ち止まったかのようです。その口元を見て、私たちもドキッとしてしまいます。ひょろりとした尻尾の「何か」をくわえているのですから。ネズミを捕らえ、巣へと戻るのでしょうか。ゆっくりと獲物を味わうのか、お腹を空かせた子ギツネたちが待っているのか、森の奥深くまでは見届けられません。輪郭線をほとんど用いること無く、大らかに絵の具を使って仕上げています。明るい赤色の地面に現れる輝かしいパステルイエロー。このフキノトウの軽やかな筆致は、柔らかくみずみずしい春の芽吹きを感じさせます。その他にも、キツネの頭部の背景が黄色で明るくなっていることで、ハッと気が付いた様子を思わせたり、背後のグレーの色味がこれから戻っていく森の中を暗示させるなど、色彩の効果が施されているように思うのです。

絵から読み取る色や形から、隠されたストーリーや思惑を引き出しながら、絵画と向き合う時間を楽しんでみませんか。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）

倶知安の春競馬

右の写真は、「昭和5年度 春季倶知安競馬」の出走馬一覧表が掲載された小冊子で、今でいうレーシングプログラムです。倶知安競馬は北海道の地方競馬として、昭和5（1930）年から昭和12（1937）年まで開催されていました。

昭和2（1927）年、地方競馬規則の施行によって、道内14の支庁に各1場の競馬場設置が許可されることになります。後志では倶知安町、余市町、朝里村の3地区が名乗りを上げ、誘致合戦の結果、「倶知安競馬場」の設置が決まります。

競馬場は、現在の倶知安農業高校の敷地に造成され、1周1,200^{きゆうしゃ}の馬場、厩舎3棟、下見所（パドック）、騎手らの合宿所などの施設を備えた、地方競馬場としては道内で一、二を争う立派なもので、春と秋の各3日間行われる競馬には、毎回多くの観客が集まり、初開催では1日に7千人が来場した記録があります。1日に9～12回行われるレースには、道内各地の生産馬とともに倶知安産の馬も出走していました。

春競馬が開催されるのは、ちょうどワイスホルンに雪形の白馬が現れる頃。山を駆ける白馬と雪残る羊蹄山をバックに疾走する駿馬たち。競馬ファンならずとも心踊る景色だったことでしょう。

文：紺谷 貴之（倶知安風土館 学芸補助員）

ふるさと探訪

492 回



かつて存在した倶知安競馬場

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展「感動の場一点」

会期：開催中～5月12日(日)

■第2展示室

〈おしゃべり美術館 2024〉対話鑑賞のススメ

会期：開催中～4月14日(日)

小山内無石^{むせき} 書 個展

青森県出身で倶知安町在住の書家・小山内無石さんによる当館初の書道展。長年、倶知安高校で指導され、岩内と倶知安で創作を重ねた書作品の数々をどうぞご覧ください。

会期：4月20日(土)～7月7日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

オープニングセレモニー&ギャラリー・トーク

「小山内無石 作品を語る」

出品作家ご本人による書の実演と作品のお話をお聞きます。

日時：4月20日(土)10時～11時30分

会場：第2展示室（無料）※予約不要

講師：小山内無石さん（書家）

おとなの手しごと（27）「筆ペンで、こいのぼり」

筆ペンで、絵手紙風「こいのぼり」カードを作ります。

日時：4月27日(土)14時～16時

会場：ロビー（無料）お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

令和6年度 展覧会スケジュール

第1展示室

※展覧会の会期・内容は変更になる可能性があります

小川原脩展「感動の場一点」	開催中～5月12日(日)
開館 25 周年記念・小川原脩展 「遙かなるイマージュ」	5月18日(土)～9月23日（月・振休）
開館 25 周年記念・第 66 回麓彩会展	10月5日(土)～令和7年2月2日(日)
小川原脩展「アジアの大地」	令和7年2月8日(土)～5月中旬

第2展示室

小山内無石 書 個展	4月20日(土)～7月7日(日)
しりべしミュージアムロード共同展	7月13日(土)～9月23日（月・振休）
開館 25 周年記念・第 66 回麓彩会展	10月5日(土)～12月1日(日)
林雅治「土でつくるもの」展	12月7日(土)～令和7年4月中旬

ロビー展示

北口さつき展	6月1日(土)～30日(日)
--------	----------------

倶知安風土館のお知らせ

■企画展示「サンモリッツ姉妹都市提携 60 周年記念展」

姉妹都市提携 60 周年を記念して、これまでの交流の歩みやサンモリッツについて紹介します。

会期：開催中～10月27日(日)

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一般 500 円（400 円）
高校生 300 円（200 円）
小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一般 200 円（100 円）
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

4 月の休館日 毎週火曜日、美術館のみ 15 日(月)～19 日(金)（展示替え）

20 日(土)は展覧会初日のため美術館観覧無料

深堀隆介展

皆さんは「金魚」と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか？

きれいな色、かわいい姿、遠い日の夏祭り…人それぞれだと思います。

昨秋、札幌芸術の森美術館にて表題の展示会を観てきました。

深堀さんは「金魚絵師」と呼ばれるほど、ほぼ全ての作品で金魚をモチーフ^{さかます}にしている作家さんで、特に酒舁^{さかます}のなかで本物の金魚が泳いでいるかのような「金魚酒」シリーズが有名。

実際は金魚のパーツ絵と、透明なエポキシ樹脂を幾重にも重ねて立体的に見せているのですが、これがまさに超絶技巧で、執念を感じさせる作品の数々。この方の描く金魚には、幽玄さや命の儚さ^{はかな}、尊さすら感じます。深堀さんと東日本大震災の被災者との交流を記録した13分ほどの映像コーナーの前で、私は30分近く離れることができませんでした。

ただ単にきれいだな、すごかったな、では終わらない、さまざまなことを考えさせてくれた展示会でした。

館長 福原 秀和^{ふくはら ひでかず}